



鬼塚小学校

2025年 6月 27日

道徳だより NO.5

文責：道徳教育推進教師 岡本

「ふれあい道徳教育」 ご参観 ありがとうございます！②

今回は、3年1組、4年1組、5年1組の授業内容と参観のご感想を紹介します。

まわりの人

3年1組「気づいていなかったこと」(主題名：おたがいに気持ちよく)

いろいろな状況で、相手の人に嫌な思いをさせたり、まわりの人に迷惑をかけたりしている様子を見て、どの場面にも共通する「気づいていなかったこと」について考えました。相手の気持ちを考えて行動することが「礼儀」だと気づきました。

あいてがいやになることを
やらないようにしたい
し、おれいも ちゃんとする
ようにしたい。

【子どもたちの感想】



れいぎについて よくわかりました。
これから れいぎ正しくしようと おもい
ました。おもいやりや あいさつや お
れいが れいぎだと わかりました。

【参観のご感想】

- 普段見られない授業中の姿を見られて良かったです。自分の意見をしっかり考え、周りの人に伝えることができており良かったです。
- 手をあげて自分の意見を言えることがすばらしいと思いました。道徳は、しっかり考えないと答えが出ないと思います。さすが3年生！考える力がしっかり身に付いていると感じました。
- 「礼儀」について、子供たちはよく分かっていてすごいなと思いました。なかなか分かっていても出来ない事はあると思います。恥ずかしい気持ちがあると、あいさつ出来なかったり、声が小さくなってしまったり聞き取れなかったり…。そこをもう少し頑張れたらいいなと思います。
- 自分が道徳の授業を受けた40年程前よりも教材や表情マークの活用など、ハード面ソフト面、進化していると感じました。1時間という短い時間でしたが、我が子が自分なりに頑張って手をあげたり、友達と関わったりしている姿を見て、安心しました。先生方、いつもどうもありがとうございます。

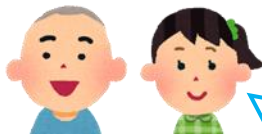
みんな

4年1組「家族の一員として」(主題名：家族の一員)

「家族の一員として」という教材から、自分は家族のために何ができるのかを考えました。教材の内容に加えて、家族がしてほしいことを予想した後に実際に家族と交流をし、自分ができるお手伝いを決めました。子どもたちは、改めて家族のために行動することの大切さを感じました。

【子どもたちが考えた「主人公の気持ち」】

まあそうか、自分が思った事がずっとおきるわけでもないし、家族だからってそんな甘えちゃだめだ。



心がほっとした。安心した。ぼくは家族の一員だと思い出した!! いつものおばあちゃんじゃないと思っていたけど、やさしいおばあちゃんによかった。

【参観のご感想】

- 雰囲気よく授業されていて、自分の意見を言うのも言いやすいと感じました。様々な意見を否定せず、共有しているのもいい事だと思います。
- これからは色んな所でお手伝いができるんじゃないかなと楽しみにしています。高学年に近づいてきた4年生らしいテーマだなと思いました。手の挙げ方や発表の仕方など、さすが4年生だなと思いました。
- 内容が「お手伝い」だったので、日頃からしてはくれているんですが、最近すこ～し忘れぎみだったので「お手伝いするね」と言ってくれてとっても嬉しかったです。
- 家族の一員としてお手伝いをする事で、自分も一人の人として大切だという存在意義を見つけてくれるといいです。家の人がするのが当たり前でなく、当たり前のようにやってくれている事も自分でする体験を経て、感謝する気持ちを同時に育んでくれたらと思います。

命・自然

5年1組 「命」(主題名: 限りある命)

神経芽細胞腫になっても生きることをあきらめなかった由貴奈さんの生き方を通して、限りあるかけがえのない命を「精一杯生きる」ことについて考えました。由貴奈さんの作った詩と曲、そしてお母さんの言葉から、自分自身の「精一杯生きる」について考え、お家の人に伝えました。

【子どもたちの感想】

ゆきなさんは得意ではないことを亡くなる前にしていて、すごいと思いました。そして長く生きようと思いました。

ぼく・私にとっての「精一杯生きる」は、いやなことがあってもくじけずに笑顔でいること。



私も命を大切にしようと思いました。命をむだにしないようにしようと思いました。

ぼく・私にとっての「精一杯生きる」は、あきらめなくて命をむだにはしたくない。

【参観のご感想】

- 子供と同じくらいの子が書いた詩を見て、涙が出ました。あたり前にある命、消えてしまう命、子供達なりに考えて命の大切さを理解してくれたと思います。また、私達大人も命について改めて考えさせられました。かけがえのない命を大切にしたいです。
- 子どもたちにとって「死」を身近に感じることは少ないと思うので、とても良い機会だと思いました。帰ってからも「毎朝家を出て、事故などなく、無事に帰ってこれるかなって心配しているよ」と伝えました。子どもたちが健康な心と体で過ごせるよう、出来るだけのことをしてあげたいと思いました。
- 「命」の大切さを考える授業でした。生きたくても生きられない人がいる中で、最近は若い人でも命を絶つ人が多く、ニュースで心を痛める人もたくさんいると思います。今日みんなが発表していた“精一杯生きる”を最後までやり遂げて、悔いのない人生を送って毎日笑って過ごせることを願っています。
- 同年代の子の詩を通して、普段の自分を振り返り、「命」について考えている子供達の様子を見ることができました。友達タイムで意見交換をしたり、手を挙げて発表したりしている姿に成長を感じました。私自身は、昔手術室のモニターで見た、患者さんの力強く鼓動するむき出しの心臓を思い出していました。自分の心臓は自分で見ることはできませんが、辛いことや苦しいことや悲しいことがあった時は、胸に手を当てて自分の鼓動(生きようとする力)を感じたいと思います。